

認知症 VR 体験

公益社団法人 茨城県作業療法士会 山倉様・森様

福祉保育コース3年生9名が、茨城県作業療法士会の山倉様、森様にご協力いただき、認知症 VR 体験を行いました。生徒たちは認知症の症状や特徴、作業療法士の役割等について学んだ後、実際に VR ゴーグルを着用してレビー小体型認知症の特徴である“幻視”を VR（バーチャル・リアリティ＝仮想現実）と AR（アグメンティッド・リアリティ＝拡張現実）で行いました。

生徒からは、「幻視は怖いものだけではないと知ったが、実際に見えると怖かった。私たちにできることは、“幻視が見える”という主張を否定せずに聴くことだと思った。」「認知症の方が安心して暮らせる環境づくりや声かけが大切だと思った。相手の立場になって考えたい。」などの感想が聞かれました。

ぜひ、今回学んだことを今後の学校での学びや将来に活かして欲しいと思います。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

